

ジブチ月例報告 (2025年9月)

在ジブチ日本国大使館

【内政】

●9月2日、ゲレ大統領は、第13回閣僚会議開催におけるスピーチの中で、今年度も国民に勇気と自己犠牲と決意を持って仕えるという、政府の執行責任を改めて強調した。

【外政】

●8月27日から29日、ムスタファ国民教育・職業訓練大臣はモスクワを訪問し、教育、職業訓練、技術革新に重点を置いた二国間関係強化を議論した。ロシア高官とのハイレベル会合では、エネルギーインフラ開発、食料安全保障、持続可能な発展、AIや革新的教育アプローチを含む新技術教育への統合等が議論された。

●9月3日、アフメド(M. Ahmed Abdi Karié) ソマリア・ガルムドゥグ州自治政府大統領率いるハイレベル代表団は、ジブチを訪問し、ゲレ大統領と会談を行い、ダメルジョグ石油ターミナルを視察した。

●9月7日、ゲレ大統領とオマール外務・国際協力大臣率いる代表団はエチオピアを訪問し、大エチオピア・ルネサンスダム正式運用開始式に参加したほか、カリブ共同体(CARICOM)・アフリカ首脳会議、第2回アフリカ気候サミットにも参加した。

●9月8日、ゲレ大統領は、エチオピアでハッサン・ソマリア大統領と会談し、二国間関係とソマリア情勢の進展、特にソマリア政府による権威回復に向けた努力について議論した。

●9月8日、アリ・ハッサン外務次官は、バクーを訪問し、バイラモフ(M. Djayhoun Bairamov) アゼルバイジャン外務大臣と会談し、経済、貿易、教育交流の強化、国際機関における連携及び人道分野における協力拡大の見通しについて検討した。

●9月9日、ジブチ外務・国際協力省は、イスラエルによるカタール攻撃は国際法及び国連憲章の明白な違反であると非難するプレスリリースを発表した。

●9月10日、オマール労働大臣(制度・社会保障担当)は、ドーハを訪問し、アリ・ビン(M. Ali bin) カタール労働大臣と移民の雇用、ジブチ人の移住等の分野における二国間協力強化を目的とした会談を行った。

●9月10日、ヘレム環境・持続的開発大臣は、エチオピアで開催中の第2回アフリカ気候サミットにおいてジブチがアフリカで初めて実施した脱炭素イニシアチブの成功事例を他のアフリカ諸国と共有した。同イニシアチブは、汚染者負担原則

に基づき炭素への拠出金を徴収し、気候変動の影響を受ける地域社会の適応プロジェクトに充当するもの。

● 9月14日、ゲレ大統領は、フランス、サウジアラビア、エジプト、パキスタン、タンザニア、ルーマニア各大使から信任状捧呈を受けた。

● 9月14日、ゲレ大統領は、アラブ連盟とイスラム協力機構によりドーハで開催された、イスラエルによるハマス幹部への空爆に関する緊急合同国際会議に参加し、同攻撃はアラブ・イスラム世界全体に対する侵略であるとしてイスラエルを強く非難する演説を行った。

● 9月15日、A f C F T Aは、第17回理事会閣僚級会合の傍ら、カイロで第4回通商大臣会合を開催し、モハメド商業・観光大臣率いるジブチ代表団が参加した。同会合はワムケレ・メネA f C F T A事務局長、ハッサン・ハティブ・エジプト投資・貿易大臣が共同議長を務め、デジタル決済、大陸内貿易の振興、米関税政策への対応等が議題となった。

● 9月20日、ゲレ大統領は、パレスチナに関する国連ハイレベル国際会議の48時間前にマクロン仏大統領と電話会談を行い、二国間協力の加速に向けて議論したほか、パレスチナ国家の承認と二国家解決を支持する共同声明の提唱者である仏とサウジアラビアの「政治的勇気」を称賛した。

● 9月21日、ラドワン通信大臣（郵便・電話通信担当）率いる代表団（アデン・ジブチ国営テレビ（R T D）総裁含む）は、カタールを訪問し、シェイク・ハメド（M. Cheick Hamed）カタール・メディア・コーポレーションCEOとの間で、研修、技術支援、機器の分野における両機関間の連携強化策について議論を行った。

● 9月22日、ゲレ大統領は、国連総会で演説を行い、国連憲章の重要性を強調し、国際的な課題に対する指針としての役割を述べ、国際協力を脅かすナショナリズムやミニラテラリズムを非難し、包括的な多国間主義の再構築を呼びかけた。また、国際法の防衛や持続可能な開発のための新たな財源の必要性を強調した。

● 9月23日、ゲレ大統領は、グテーレス国連事務総長と会談を行い、アフリカの発展、国際金融システムの改革、安保理改革等について議論した。

【経済・開発】

● 9月2日、ジブチテレコムは、2028年までに海底ケーブルD A R E 1（Djibouti Africa Regional Express 1）をケニアから南アフリカまで延長する計画を発表した。新ケーブルはケニアのモンバサ港とダーバン北東にあるムトゥンジニを接続し、タンザニア、モザンビーク、マダガスカルにも中継局が設置される予定。2026年に工事が開始され、2年後には供用開始される見込み。

● 9月8日、ラドワン通信大臣（郵便・電話通信担当）は、ロッカサルヴォ（Mme Alessandra Roccasalvo）UNDPジブチ事務所新代表の表敬訪問を受け、ジブチと国連機関との協力強化について話し合った。

● 9月8日、ディレイタ国民議会議長は、ファトウ（Mme Fatou Fall）世銀ジブチ常駐代表との間で会談を行い、ジブチと世銀の協力関係、特にデジタル規約の採択における議会の役割や、経済の主要セクターを網羅する世界銀行が実施する20の開発プロジェクトについて意見交換を行った。

● 9月8日、イリヤス経済・財政大臣（産業担当）は、La Nation紙への寄稿の中で、ジブチは長年難民受入れや主要な人道支援拠点として機能し、インフラ整備に多大な投資を行う積極的な投資家でもあり、ジブチ港は周辺国の経済発展に貢献しているとした上で、ジブチの貢献度に対して国際援助は不十分であり、適切な資源配分が求められると主張した。

● 9月8日、ヨニス・エネルギー大臣（天然資源担当）と AMEA Power（ドバイ拠点のデベロッパー）、Grand Bara Solar SAS等の責任者との間で、グラン・バラ地区に建設予定の国内最大となる25MW規模の太陽光発電所プロジェクトの資金調達と着工に向けた最終合意がなされた。同会議では、ジブチ政府とGrand Bara Solar SAS間の合意、ジブチ電力公社との合意、国家保証に関する法令制定等が議題となった。

【保健・衛生・社会】

● 9月2日、サウジアラビアのサルマン国王財団は、ジブチ保健当局に医薬品と医療機器が入ったコンテナ20個を寄贈した。

● 9月7日、ムスタファ国民教育・職業訓練大臣とダステル（Mme Beat Dastel）ユニセフ常駐代表は、2025-2026年度の教育予算化作業計画に署名した。同計画は、特に農村部における女児の教育強化、人材育成、統合型農村学校プロジェクトの継続等を目標とするもの。

● 9月8日、モーリシャスで開催されたオープン国際柔道大会において、ジブチ人のアレクサンドル（M. Alexandre Hussein）選手は-73kg級で金メダルを獲得した。

● 9月16日、ママドゥ（M. Mamadou Dian Baldé）・UNHCR地域局長はジブチを訪問し、サイド内務大臣、アフメッド保健大臣、国民教育・職業訓練省事務次官と会談を行った。

● 9月27日、ユネスコは「人間と生物圏」プログラムの枠組みで、îles des Sept Frères, Ras Siyan, Khor Angar, Godoriaの群島を、ジブチ初の生物圏保護区として登録した。これらの地域は紅海に面し、サンゴ礁、マングローブ、湿地等の希少な生物多様性を持つ。

● 9月28日、イリヤス経済・財政大臣とイオネット駐ジブチEU大使は、女性性器切除（FGM）撲滅を目標とするプロジェクトと、「協力促進 II」と命名された国家開発計画の実施と行政の管理能力強化を目的とするプロジェクトの実施に向け、総額700万ユーロの資金提供協定に署名した。

【軍事・治安】

● 9月7日、ジブチ駐留中国保障基地は、ジブチ市内の第5区学校に学用品を配布する民軍活動を行った。

● 9月8日、ジブチ警察当局は、スモークガラスを装着した車両について取締りを強化すると発表した。

● 9月17日、環境・持続的開発省と港湾及び紅海・アデン湾地域環境保全機構（PERSGA、Port et l'Organisation régionale pour la conservation de l'environnement de la mer Rouge et du golfe d'Aden）は、ドラレ多目的港において海洋事故汚染対策の緊急措置訓練を行った。

● 9月21日、ジブチ市内で銃器強盗が発生した。2名の武装した強盗は銀行を襲い、金銭を強奪したが、数時間後に逮捕された。

【日本関係】

● 9月11日、大島臨代は、JICA長期研修員帰国報告会に参加した。

● 9月24日、大島臨代は、ハマディ（M. Hamady）ユニセフ事務所新常駐副代表による表敬訪問を受け、意見交換を行った。

（了）